

# ぼいす

飛鳥山博物館だより

2018.3.20

# 40

## おかげさまで20周年



# 徳川家光と若一王子縁起絵巻

三代将軍徳川家光は若一王子社（現在の王子神社）の造営を記念して縁起絵巻の製作を命じ、寛永18年（1641）、「若一王子縁起絵巻」が完成しました。

この絵巻には、かつての若一王子社の佇まいや、現在、北区指定無形民俗文化財である王子田楽おうじでんがくを詳細に描くなど、地域の歴史を物語る貴重な絵画資料であることがわかります。

春ののどかな日に、遙かな中世から近世初期にかけての地域の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

- 会 期：平成30年3月17日(土)～5月6日(日)
- 開館時間：午前10時～午後5時
- 休 館 日：4月30日を除く毎週月曜日および5月1日(火)
- 会 場：特別展示室・ホワイエ
- 観 覧 料：無料

## 若一王子社とは

現在の王子神社は、近世以前においては「若一王子社」、「若一王子宮」と呼ばれ、また「王子権現」とも称された古社です。創建は古く平安時代末期、武蔵国豊島郡を支配した武士団豊島氏が、自らが開発した荘園「豊島庄」を紀伊国に鎮座する熊野権現に寄進し、荘園鎮守神として若一王子社を勧請したものと考えられています。紀州熊野権現は主祭神の三所権現のほか、五所王子・四所明神からなる大規模な祭神体系をもち、合わせて熊野十二所権現として遠隔地参詣の聖地とされていました。その中で若一王子は五所王子第一位の神格で、中世に熊野信仰が全国に広まるにつれ、若一王子社も各地に勧請されました。



「若一王子縁起絵巻」(部分)



## 博物館がつなぐもの

開館20周年ともなれば博物館の特徴、いわゆるカラーが定まってくる。当館のカラーはと問われると、講座や講演会といった普及事業の多さといえるのではないだろうか。年間概ね80回程度開催し、そのほとんどの講師を当館学芸員が担当している。学芸員の顔が見えない博物館も多いと聞すが、比較的露出の多い館といえよう。友の会等がない中で、リピーターとの距離を縮める機会は、これらによるところが大きいのである。

この20年の間に参加者の顔ぶれはいくぶんかわり、博物館を利用する目的もゆっくりと変わってきているようである。されど1つだけ変わらない点を挙げるとすれば、地域のことを知りたいという熱意の強さだろう。まさにそれに応えるべく、当館は郷土風土博物館として開館したのであるし、今後もそのための資料や情報を集め、保存・公開していかなければならないのである。

最近では大人に混ざって、小中学生の顔を講座・講演会で見かけるようになってきた。実のところ、在職の学芸員の中には、自身も子どもの頃に持った博物館との接点が今につながっている者も少なくない。彼らの芽生え始めたばかりの熱意を育て、未来へとつなげていくことも博物館の大切な役割である。当館では来館者とのつながりを大切にしつつ、これからも1日1日を歩んでいきたい。(安武)



## 旧古河庭園をめぐる台地・水・人

山口 隆太郎

西ヶ原にある旧古河庭園を訪れた方も多いと思う。様々な美しいバラの咲く洋風庭園や日本庭園は、画趣あふれ、私たちに美しい朗景を見せてくれる。旧古河庭園は、鉾山経営で知られる古河家の3代目古河虎之助の邸宅と庭を公開している都立庭園である。国の名勝に指定されている美しい近代庭園は、地形を巧みに利用して景観を変化させている。台地上に洋館が立地し、そこから低地に向かう斜面地に洋風庭園、低地部に日本庭園が配置され、私たちが飽きさせることなく楽しませてくれる。ジョサイア・コンドルの設計になる洋館と西洋庭園は大正6年に竣工し、その2年後には日本庭園が完成している。都内には、湯島の旧岩崎庭園や三田の三井倶楽部、品川の三菱開東閣など、低地部と台地が入り組む東京の地形を巧みに取り入れた旧古河庭園のような名庭園・邸宅が残っている。

明治時代に日本に入ってきた技術や文化は、建物や庭園にも大きく影響を与えた。明治10年に建築家ジョサイア・コンドルが工部大学校に赴任し、そこで建築を学んだ辰野金吾などの建築家が次々と西洋建築を建てていった。こうした建築家による華族や政財界人の邸宅建築とそこに造られる庭園では、西洋の建築や庭園が日本の建築や庭園と巧みに融合されていた。洋館と共に和風住宅が造られることも多く、家人の日常の居住スペースを和風住宅とした。屋敷地内には、西洋式の庭園と日本庭園を併せ持つものや、洋館と和風住宅と日本庭園の組み合わせで構成されるなど、一つの敷地の中に西洋式と伝統的な和風が併存する、日本型の邸宅・庭園が造られた。旧古河庭園もこうした邸宅・庭園の一つである。特筆すべきは、コンドル設計の洋館と西洋庭園が、近代和風庭園の作庭に大きな功績を遺した7代目植治こと小川治兵衛の手になる日本庭園と見事に融合されている点である。これを実感するには、とにかく庭園を歩いてみることをお勧めする。門を入り、洋館の脇を抜け、整然とした洋風庭園の階段を下りると、庭園越しに青空を背景にそびえる美しい小松石貼りの洋館を見ることが出来る。古河邸では、洋館と和風住宅を並立させずに、洋館の2階に日本間を配して1棟の建物に洋と和を無理なく共存させている。まさに、日本文化に造詣の深いコンドルならではの設計である。再び階段を下り、樹木の中を抜けると、池泉回遊式の日本庭園が広がる。池の周りを巡る作庭方法は大名庭園に通じるものである。滝や流れを配した水景、様々な石積の技法、石造物の配置がされている、この日本庭園は、京都を中心に優れた庭園を残した植治の東京での作庭例として知られる。特に7mの落差がある大滝は、当時から地下水をポンプアップし水を落としており、機械の力と台地上の地形を利用して勇壮な景観を現している。このように旧古河庭園は、西ヶ原の地形と水、建築家ジョサイア・コンドルと造園家小川治兵衛と古河虎之助、文字通り、台地と水と人がつながることで完成した名庭園なのである。

そして、今、西ヶ原の地に造られた旧古河庭園には100年の時間が流れた。時の衣をまとった庭園が、私たちの目の前にある。



(写真 東京都公園協会 旧古河庭園サービスセンター提供)

おかげさまで20周年!

# 写真で振り返る20年の軌跡

平成10年3月27日、桜の名所飛鳥山に北区飛鳥山博物館は誕生しました。それから早20年。今年の3月27日を迎え、当館は20歳となりました。人間でいえば成人式。その成長の過程でおきたさまざまな出来事を、ちょっと振り返ってみましょう。

平成10年

## 博物館誕生

八代将軍徳川吉宗ゆかりの地、飛鳥山に北区飛鳥山博物館が誕生しました。両隣には紙の博物館、渋沢史料館も同時オープン。飛鳥山に3つの博物館が並び立ちました。



平成11年

## なんと1年に8つの展示!

特別展や企画展など数えてみたら大小合わせて8つも展示を行いました。その一つミニ展示「ぼかぼかあったか暖房具」では、なんと布団が登場。手を入れてみるとほかほかします。中に湯たんぼがかくされていました。



平成12年

## 12ヶ月にわたって北区巡り

連続講座も多くて4回程度が普通ですが、月に1回1年を通して行われた講座がありました。その名も「北区12ヶ月巡り」。区内のあちらこちらを、季節を感じながら巡りました。



平成13年

## 夏休みわくわくミュージアム始まる

夏の恒例イベント「夏休みわくわくミュージアム」がこの年にスタート。「夏を集めよう」と題した展示では、なんとザリガニ釣りの池も登場! 手作り感満載の展示となりました。(本物のザリガニはいません(笑))



平成14年

## 企画展開連イベントの開催

館活動が軌道に乗ってきたこの年あたりから企画展に連動してイベントを行うようになりました。夏期企画展「金の船・金の星 今に生きる児童文学の世界」では、館蔵資料の蓄音機で懐かしい調べを聞く鑑賞会を行いました。



平成15年

## 博物館でコンサート

もっと多くの方に博物館に親しんでもらおうということで、弦楽四重奏によるミニコンサートを開きました。バックの中里貝塚の剥ぎ取り標本が何とも言えない雰囲気をかもしだしています。



平成16年

## 好評! 来て見てさわって昔の道具

昔の道具を調べたり、体験したりする小学校向けのこの事業もこの頃には定着し、毎年区内の全校の小学3年生が博物館を訪れるようになりました。かまど体験ではいつも煙と奮闘しています。



平成17年

## 歩け歩けあるけおろじー

葛飾区郷土と天文の博物館との合同企画で古代の東海道を歩く「あるけおろじー」は10年間歩き続けた講座でした。踏破した後のすがすがしい顔はなんとともいえません。



平成18年

## 人気講座、在来種野菜観察会

野外講座が多いのも当館の講座の特徴です。中でも区内で在来種野菜を栽培している農家を訪ねる当講座は人気講座です。お話を伺った後はみなさん、お土産に野菜を買って帰りました。



平成19年

### スポット展示セレクション5

展示は企画展のような規模の大きい講座ばかりではありません。館蔵資料を紹介するスポット展示も行いました。解説シートを集めると冊子になるしかも好評で、毎年集めている方もいらっしゃいました。



平成20年

### おかげさまで10周年!

徳川吉宗が飛鳥山に桜を植えさせた事にちなんで、開館10周年を記念して、飛鳥山公園に桜の木を植樹しました。植樹には徳川宗家の当主にもご参加いただきました。



平成21年

### インターンシップを行う

博物館では高校生のインターンシップも受け入れました。講座の受付や補助をしてもらいました。笑顔で若い力を存分に発揮していました。



平成22年

### 館内の部分リニューアル

開館10年を超えて、常設展示室の一部のリニューアルと3階にアートギャラリーを新設しました。これにともないホワイエにあった中里貝塚の剥ぎ取り標本は常設展示室内にお引越しをしました。



平成23年

### 10年を迎えた人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展

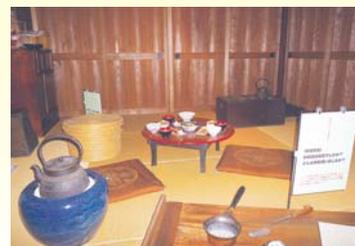
北区名誉区民である奥山峰石氏と北区ゆかりの工芸作家の方々の作品を展示する特別展覧会も、この年に10年を迎えました。毎年すばらしい美術工芸作品を目にして来館者もうっとり。作品解説にも多くの方が参加しました。



平成24年

### 回想法展示オボエテマスカ? 始まる

常設展示室の水塚家屋に昔懐かしい道具達を展示する「回想法展示オボエテマスカ?」がこの年にスタート。資料を解説するのではなく、質問を投げかけることで昔のことを思い出してほしいとの思いがここにあります。



平成25年

### 常設展示室で講座を

講座は講堂だけで行うものではありません。常設展示室で展示資料を目の前にして、お話をする講座も行いました。いつもとは違う雰囲気に参加者も新鮮な感じだったと思います。



平成26年

### 五感をつかって館内めぐり

夏休みわくわくミュージアムの一環で、五感に訴えるイベントを行いました。その名も「涼しいを集めよ! 博物館で涼ハント!」。館内各所の「涼しい」をキーワードにしたクイズを問いてまわるというものです。とりわけ嗅覚の「香り」は苦勞しました。



平成27年

### 中学校で特別授業

博物館活動は館の中だけでなく館外でも行っています。その一つが出張による特別授業です。この年は西ヶ原貝塚の上に立つ北区立飛鳥中学校の依頼で、学校所蔵の西ヶ原貝塚出土資料を用いた授業を学芸員が行いました。みんな興味深く資料を手にしていました。



平成28年

### 新たな利用者層を増やそう!

博物館の利用者というと、圧倒的にご年配の方と子どもたちが多いです。そこで中間層の年齢の方々にも博物館に足を運んでもらおうと企画した講座が「アーユレディ? 博物館でお産準備」です。助産師さんをお願いして体操を覚えてもらい、安産祈願の「犬張り子」を作りました。



平成29年

### メガヒット! 2万人越えの企画展!

春の時期は花見による飛鳥山の賑わいにあわせて多くの方々が当館を訪れます。この時期に開催される春期企画展は他時期の企画展に比べ観覧者がグンと増えます。それでもこの年の春期企画展「浮世絵の愉しみ」はなんと2万人を超えました。多くの方のご観覧ありがとうございました。



平成30年

### そして博物館は・・・

二十歳になった当館ですが、これからもモノを集め、守り、そして調べたコトを展示や講座などでみなさまにお伝えしていきます。これからも歩き続ける博物館を応援してくださいようお願いいたします。

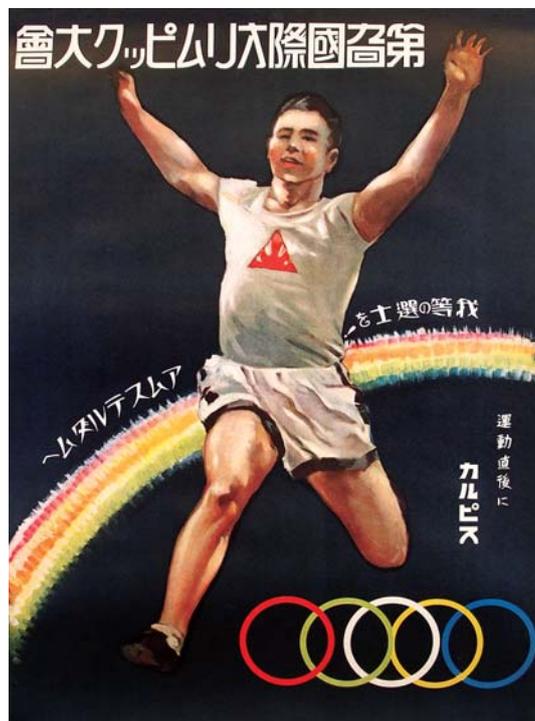


韓国・平昌冬季オリンピックに続き2年後の東京大会へと、オリンピックへの関心が高まり続けています。そこで今回は、昭和3年（1928）夏にオランダ・アムステルダムで開かれた第9回国際オリンピック大会の応援ポスターをご紹介します。

黒地の画面には両手を挙げた男子陸上選手の姿が力強く描かれ、背景に虹状の線とともに「我等の戦士を！アムステルダムへ」と勇ましいキャッチ・コピーが添えられています。右下には五輪の図とともに「運動直後に カルピス」とあることから、オリンピックに先んじて飲料会社が応援と宣伝を兼ねて制作したものと分かります。

日本初の乳酸菌飲料であるカルピスは大正8年（1919）に販売が始まり、少し贅沢な滋強飲料として人気を得ていました。オリンピックは同飲料が運動後の元気回復に効果があることをアピールする絶好の機会だったに違いありません。ただし、肝心の五輪の図が形も色も正式なマークと異なっています。五輪マークは1914年に制定されていますが、使用許諾が必要なかった時代、絵柄にあわせて変えてしまったのでしょうか。

このポスターを所蔵していたのは、当時王子町豊島に在住し、同大会のボート競技に唯一人シングルスカルの選手として出場された方でした。街に飾られた応援ポスターは、大会に向かう選手たちの心にも力を与えていたのかも知れません。（久保埜）



昭和3年(1928)以前 タテ62cm×ヨコ46cm



## 写真にみるあの日あの時

### 赤羽馬鹿祭りはここから始まった ～昭和30年10月区画整理完成記念パレード～

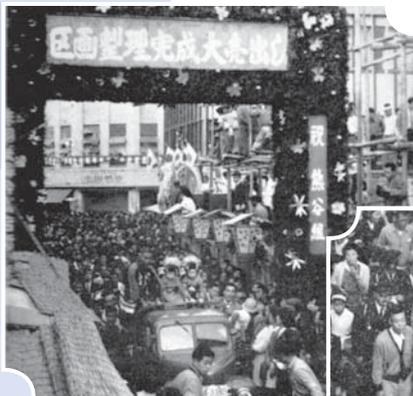
昭和30年に赤羽で行われたパレードの様子を撮影した二枚です。

左上の写真は、赤羽駅東口、現「赤羽一番街商店街」の入口にあたる場所を撮影しています。ゲートには「区画整理完成大売出し」と掲げられ、左の柱には「赤羽復興会商店街」の文字があります。

昭和20年8月の終戦後、赤羽駅の東口にはヤミ市が立ちました。それに対抗するべく、もともと赤羽で商売を営んでいた店主たちは10月に第1回同志会をひらき、赤羽復興会を立ち上げました。戦災復興の区画整理が終わり商店街が整備されると、赤羽復興会は昭和30年10月に記念の大売出しとおいらん道中のパレードを開催しました。この二枚はその時の商店街の様子を伝えてくれます。

建物の二階から身を乗り出すようにしてパレードを見る人。大売出し

目当ての買い物客らしき女性たち。いぐり頭の少年もいます。街路は、車で進むおいらん道中が埋もれてしまうような人出です。この日のエネルギーは、商店街の恒例行事へとつながっていきます。翌31年4月1日、商店街の旦那衆が自ら扮装した仮装行列が繰り出されました。第1回赤羽馬鹿祭りです。以後、馬鹿祭りは63回を数えています。赤羽の春は、「仮装して馬鹿になろう、踊って馬鹿になろう」の心意気とともにやってきます。（田中）



# 心ふるえる展示体験

新宿区立漱石山房記念館

夏目漱石(慶応3年—大正5年)の生誕150年を記念して、一般からも寄付を募り昨年9月24日に新宿区早稲田南町7番地に開館しました。作家を顕彰する記念館はしばしば生誕地か逝去地に建てられますが、ここは後者に属します。もっとも漱石は隣町の喜久井町で生まれたので、新宿区が一番縁があるのです。漱石山房と呼ばれたこの地で晩年の約9年を過ごした漱石は「坑夫」・「三四郎」・「こゝろ」・「硝子戸の中」等の作品を執筆しました。

館の目玉は何と言っても和洋折衷を意識して設えられた書齋・客間・ベランダ式回廊の一部を再現した実大模型です。特に書齋の内部は写真をもとに極めて精巧に再現され驚かされます。また、外構部には旧宅の庭にあったのと同じ種類の木が植栽され、回廊からも眺められます。利用者空間はこの再現展示を中心に構成されているようです。

敷地が斜面地であるためか館内には階層差があり、徒歩で常設・特別展示室に辿り着くまでにやや煩わしさを覚えました。それを帳消しするかのように入館正面両脇にはブックカフェが併設されており寛げるのはOK。透明のガラス壁に接し真南に向き合うカウンターには外光が差し込み開放感たっぷりです。少し眩し過ぎるのが玉に瑕かな。それはともかく、ここが末永く愛好家達の憩いの場になることを願っています。(中野)



## 博物館インフォメーション

### ミュージアムグッズにニューフェイスが登場!

去る2月よりオリジナルミュージアムグッズに、新たに「ミュージアムトートバッグ」が加わりました。本体の大きさが縦30cm、横40cm、奥行14cmあり、けっこう容量があります。しかもファスナーが付いているので中身を見られることはありません。素材はポリエステル。色はネイビーとワインレッドの2色から選べます。お値段は1個500円。散歩やお買い物にぜひ。



### 障害のある方は観覧料を半額に

4月1日より、常設展示を観覧される方で障害のある方は、現行の一般料金大人300円のところ半額の150円となります。チケットを購入の際に「障害者手帳」をご提示ください。また、障害のある方お一人につき介助者1名まで観覧料が免除となります。

### 館内消毒による臨時休館のお知らせ

大切な収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸(くんじょう/殺虫・殺菌処理)を行うため、7月上旬の4日間ほど臨時休館とさせていただきます。詳細な日程は、北区ニュースやホームページなどでお知らせいたします。なにとぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

### 北区の昔を伝える資料や写真を探しています!

当館では、北区内で使われていた生活用具や、北区内を写した懐かしい写真など、昔の暮らしがわかる資料を探しています。「こんなものでもいいのかしら?」と思ったら、ぜひ博物館(03-3916-1133)までご一報ください。



平成6年の王子駅前の様子。まだ「富士銀行」があります。



学芸員リレーエッセイ



# いろは歌留多

この冬は最強寒波が日本列島を覆い、冷え込みが厳しい日が続きました。当館では、冬の風物詩である「来て、見て、さわって！昔の道具展」が終わり、春に向けた準備をしているところです。私事ですが、私も飛鳥山博物館で過ごす2度目の春を迎えることになり、この1年を振り返っては反省と次年度への期待が同時にやってきます。

さて、当館は今年、開館20周年のアニバーサリーイヤーに入りました。博物館というところは「存在し続けること」が重要な施設で、その使命として、未来の区民の方々に北区の歴史や民俗、自然がわかる資料を残すという役割を担っています。しかし、資料を残そうとするあまり、収蔵庫の中に資料を収蔵したままにすると、そもそも何のために資料を収集して、保管しているのかわからなくなってしまいます。今の皆様に資料をたくさん見てもらいたいけど、開館40周年を迎える時、20年後の皆様にも同じように資料を見てほしい。このジレンマは、常に数十年先のことを考えて仕事をする学芸員にとって共通の悩みといえます。

私も、短い任期の中で、自分の仕事が未来の区民の方々や飛鳥山博物館のためになっているか問い続けながら仕事をしたいかなくてはと思います。(工藤)

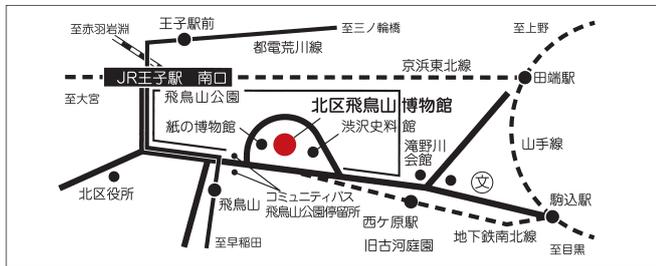
## 利用のご案内

- 【開館時間】** 午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで  
**【休館日】** 毎週月曜日(月曜が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)  
 年末年始(12月28日～1月4日)  
 ※このほかに臨時休館日があります。

### 【常設展示観覧料】

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者 (65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円

・小学生未満は無料  
 ・団体扱いは20名以上  
 ・障害者手帳をご提示いただいた場合は、一般券を半額でご利用になれます。(障害のある方お一人につき、介助者1名まで観覧料が免除になります。) ※平成30年4月1日より  
 ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館・紙の博物館をご覧になれます。



- 交通のご案内**
- 【JR京浜東北線】 王子駅南口より徒歩5分
  - 【地下鉄南北線】 西ヶ原駅より徒歩7分
  - 【都電荒川線】 飛鳥山停留場より徒歩4分
  - 【都バス 草64、王40系統】 飛鳥山公園停留所より徒歩5分
  - 【北区コミュニティバス】 飛鳥山公園停留所より徒歩3分

## 編集後記

平成30年3月27日を迎え、当館は満20歳となりました。開館当時からいので、これまでのことが走馬灯のように頭に浮かんでいきます。でも感慨にふけてはいけません。当館はようやく成人となったばかりなのです。これから成熟した大人(博物館)を目指して、さらなる進化を遂げていきたいと思っております。これからも北区飛鳥山博物館をよろしくお願いたします。(鈴木)

## 平成30年度上半期の催し物予定

### 春 4月～6月

#### 〈展 示〉

- ◆春期企画展「徳川家光と若一王子縁起絵巻」……………(3/17～5/6)
- ◆スポット展示「かえってきた! ASUKAYAMAセクション5」……………(5/22～6/24)
- ◆パネル展示「旧古河庭園をめぐる人びと」……………(5/22～6/24)
- ◆テーマ展示「オボエテマスカ?—懐かしの暮らしと道具—」……………(3/10～6/17)

#### 〈講 座〉

- ◆北区における郷土史の父・五十嵐重作……………(4/14)
- ◆北区民俗学講座「北区の旧村地域を歩く! 下村編」……………(4/21)
- ◆アーユレディ? 博物館でお産準備……………(4/22)
- ◆北区遺跡学講座リターンズ「飛鳥馬場遺跡」……………(4/28)
- ◆桜と名所の講座2「桜の美学と実学」……………(4/30)
- ◆小説から読み解く明治期の東京北西郊……………(5/12)
- ◆北区文化財めぐり……………(5/13)
- ◆桜と名所の講座3「名所の変遷をたどる」……………(5/19)
- ◆吉宗と王子・飛鳥山……………(5/20)
- ◆飛鳥山3つの博物館合同企画「歴史発見! 街めぐり」……………(5/26)
- ◆北区ジュニア考古学クラブ……………(6/3・10)
- ◆ドナルド・キーンと北区 ひとすじの道をたどって…(6/16)
- ◆旧古河庭園100年記念シンポジウム……………(6/17)
- ◆スポット展示まるっと解説……………(6/23)
- ◆北区の富士塚を見に行こう……………(6/24)

### 夏 7月～9月

#### 〈展 示〉

- ◆夏休みわくわくミュージアム展示  
「道具のカガク—集まれ! 北区のタカラモノ—」……………(7/21～8/26)
- ◆特別展覧会「第17回人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」……………(9月中旬～10月中旬)

#### 〈イ ベ ント〉

- ◆夏休みわくわくミュージアム☆2018……………(7/21～8/26)  
・夏休み勾玉づくり教室/地下鉄車庫見学会 など

#### 〈講 座〉

- ◆第32回新聞から読む考古学—2018年上半期を振り返る—……………(7/1)
  - ◆駅弁掛け紙の図像学……………(7/14)
  - ◆北区ジュニア考古学クラブ……………(8/25・26)
  - ◆あるけおるじー 古代東海道を歩く……………(9/16・23・30)
  - ◆赤レンガと酒づくり……………(9/29)
- ※名称は仮称を含む。実施日は予定。

北区飛鳥山博物館だより **ほいす40**

発行日 平成30年3月20日  
 編集・発行 北区飛鳥山博物館  
 〒114-0002 東京都北区王子1-1-3  
 TEL. 03-3916-1133  
 印刷 文明堂印刷株式会社